

二〇一〇年二月一四日(日) 聖日礼拝第一〜第四

『恩寵溢れる人生』 出エジプト記二七章一〜八節

説教者：藤林いざや師、今井直喜師

(新共同訳)

27:1 アカシヤ材で祭壇を造りなさい。縦五アンマ、横五アンマの正方形、高さは三アンマとする。2 祭壇の四隅にそれぞれ角を作り、祭壇から生えているように作り、全体を青銅で覆う。

3 灰を取る壺、十能、鉢、肉刺し、火皿などの祭具はすべて青銅で作る。4 祭壇の下部には青銅の網目作りの格子を付ける。その網の四隅に青銅の環四個を取り付ける。5 網目格子は祭壇の半ばの高さにある、張り出した棚の下の部分に付ける。

6 祭壇を担ぐためにアカシヤ材の棒を作り、それを青銅で覆う。7 この棒を環に差し込み、祭壇を運ぶとき、その両側に棒があるように整えておく。8 祭壇は板で造り、中を空洞にする。山であなたに示されたとおりに造りなさい。

(聖書講解)

A・祭壇は、縦横が二・二五m、高さ一・三五mのアカシヤ材性で、()の板で表裏を覆い、火の使用に耐えるよう配慮されているが、基本が木製なので、移動を前提とした構造だといえる。

B・四隅の()は、祭壇の上部の四隅にある突起部で、儀式の際に犠牲の動物がしっかり固定されるようにした。

C 《灰を取る壺》は「XX」(七〇人訳ギリシヤ語旧約聖書)では「祭壇の()飾り」と訳されており、《十能》は、炭火を運ぶための柄の付いた一種のシャベル、《肉刺し》は、犠牲の肉を祭壇の上に載せたり、ひっくり返したりするための三叉の熊手のような道具。

D・祭壇の下部に網目作りの青銅の《 》を張り、燃えさしや燃え殻が下に落ちるのを受け、祭壇の中が《空洞》なのは搬送用に軽くするためである。

A 青銅
B 角
C 縁
D 格子

メッセージポイント

人生の窮地に陥った時に、
の角を握ろう。

参照) 列王記¹5:0 アドニヤもソロモンを恐れ、立つて行き、
祭壇の角をつかんだ。……2:28 この知らせがヨアブにまで
届いた。ヨアブはアブサロムには加担しなかったが、アド
ニヤに加担したので、主の天幕に逃げ込み、祭壇の角をつ
かんだ。

参照) 詩編¹8:3 主はわたしの岩、砦、逃れ場。わたしの
神、大岩、避けどころ。わたしの盾、救いの角、砦の塔。

参照) ¹9:6 我らのために救いの角を、僕ダビデの家から
起こされた。

絶えず芳(かんば)しい)
をいけにえとして捧げよう。

参照) レビ記¹7:9 祭司はその血を臨在の幕屋の入り口に
ある主の祭壇に注ぎかけ、脂肪は主を宥める香りとして燃
やして煙にする。

参照) ヘブライ書¹3:15 だから、イエスを通して賛美の
いけにえ、すなわち御名をたたえる唇の実を、絶えず神に
献げましょう。